地版アクセス

毎月1回 1日発行 購読料 定価150円 (本体136円) 年間1,500円(税込み) 振替 00120-0-19017

発行所 ㈱地方・小出版流通センター 編集 アクセス編集委員会 〒 162-0836 東京都新宿区南町 20 TEL.03-3260-0355 FAX.03-3235-6182

北海道出版企画センター創業50周年 ─□■□ 蝸牛の歩みを続けて

文・北海道出版企画センター代表 野澤緯三男



北海道出版企画センターが刊行してきた松浦武四郎関連図書

『北方文化論』の誕生

小社は定年間近い54歳になった父信義が、1971年2月「出版の志、絶ち難く」(「遺されたノート」)の思いで、友人の事務所(北3西3、スノー会館)に一つの机を置かせてもらい創業しました。

そして再出発にあたり戦前にお付き 合いのあり、没後8年を過ぎ刊行のな かった河野廣道先生の著作の出版を決 意、そのお願いにご遺族の河野本道先 生をお訪ねします。

河野先生の著書の出版は、弘南堂書 店の高木庄治さんのところで計画され 進行中あったのですが、高木さんのご 理解をいただき父が河野廣道先生の著 作集『北方文化論』(河野広道著作集 I ~Ⅳ)として刊行出来ることになったのです。

小社の刊行書籍の多くが北海道の歴 史に関するものとなっていますのは、 初の出版物が考古学・民族学・人類学・ 歴史学など多岐にわたる河野先生の著 作集の内容によるものであったからで、 その後は多くの方々からの協力・応援 などを得ることに繋がっていったので す。

復刻と史料の翻刻

私は1975年3月、父の勧めを受け とめやるなら早い方がの思いでこの仕 事に就きました。移転していた事務所 の駐車場には前任者が使用していたホンダシビックが私を待っていた。そして次の日には白老へ出張したことを覚えている。

その後、よく事務所に来られていた 渡辺茂先生を自宅へ送った時のこと、 釧路にお住まいのころ、「史料を捜しに 札幌に出て、2日や3日泊まってもほんの僅かしか書き留められなかった。 復刻本や史料の翻刻による書籍を手元 に置くことが出来るようになり、地方 の人たちは助かっているし、図書館に あるようになるとより多く人が利用出 来るようになる」と限られた所にしか ない史資料の復刻・翻刻の大切さを話 していただいた。

『北海道史年表』・『北海道殖民状況報文〈五冊〉』(75年)、『竹四郎廻浦日記〈上・下〉』(78年)、『アイヌ史資料集〈八巻〉』(80~81年)などが刊行されていた時期であった。

刊行書籍、父からの宿題

河野広道著作集『北方文化論』、名取 武光著作集『アイヌ考古学』の刊行後、 復刻本を勧められるようになっており、 「杉山寿栄男先生の著作物」の復刻出版 につき最初に知らせてくれたのは、当 時北海道開拓記念館に勤務しておられ た松下亘さんでした。

この優れた著作物は、『アイヌ芸術』・『アイヌ文様』など12冊にもなるもので、これらの復刻刊行は、1973年『アイヌ芸術』に始まり1981年の『日本原始工芸概説』まで11冊を復刻させていただいているのですが、いまだ『上代文様集』のみ小センターの諸事情により刊行に至っておりません。

06年に亡くなった父が、『蝸牛の歩み 創業30年を振り返って』(01年) のなかで、

「ご遺族の杉山寿先生からの「父の出版物はすべて貴方にお任せします」とのお言葉をいただいた者としてその実

現ができていないことを誠に申し訳な く思う次第です。近い将来息子が、きっ とお約束を果たすと思っております。」

と述べています。11 冊目から40年になりますが杉山寿先生とのお約束、父から宿題を果たすべく作業を始めています。

返本に

やっと最近なり改善されつつありま すが書籍の流通には返本がつきもの。 何度も苦しめられ泣かされ悔しい思い をしたことか。七冊のセット本、残り が三セットしかなく各巻は不揃い、二 巻目の注文に対し「セットの残りが少 ない」と答える。注文相手は「それで はセットでお願いします」。数ヶ月後二 巻だけが抜かれて返本。大手も大手の 仕業。嗚呼情けなや。一時期多くの老 舗書店などの閉店により大量の返本が 続いた年、返本の中には箱なし、カバー なし、何でも返ってくる。また系列店 の在庫調整だろう数店舗からまとまっ ての返本、泣き寝入りしかないのか? いや交渉に。話を聞いてくれている のか? いやいや聞こうとなど・・・・。 鳴

40年も前になろうか、父が戦前戦後とお世話になっていた東京の中小出版社の倉庫を見せてもらったことがあった。きれいに整理された天井までの沢山の在庫本。目にとまったのは大量のカバー類と帯・スリップ、机に備え付けられたグラインダー。息の長い出版物、一冊一冊を再生し注文に応えるのだと教えられた。

呼ナサケナヤ。

小社も返本された書籍は、処分するなどということはなく、あの時目にしたように取り置きされているカバー・帯などを取り替え再生された書籍は、20年30年も……注文に応えようとまっている。

河野家三代とのながい長い糸

本道先生の祖父常吉先生は文久2年 (1862) 生まれ、私の祖父小三郎は慶応2年 (1866) 生まれ。渡道は同じ明治27年、ともに信州人であり、札幌入りは7月と5月です。

「河野常吉著作集別巻」として復刻の 常吉先生編纂『北海道殖民状況報文 日 高国』と『同 釧路国』は、明治 32・33 年の刊行で、印刷は祖父経営の野澤活版所となっており、この復刻本の奥付により二人の出会いは、少なくとも明治31年(1898)にあったであろうこと知る。

次いで父は、1940年夏、東京の出版 社厚生閣に勤めていたおり札幌への帰 省の時、本道先生の父広道先生のとこ ろをお訪ねした。

先生は父の請いを容れられ「森林昆虫記」の執筆を承諾して下さいます。

この「森林昆虫記」は、36年を経て、1976・77年に『森の昆虫記1雪虫篇』、『森の昆虫記2落し文篇』として刊行されています。

父は、「私にはこの原稿が長い年月、 私の手で出版されることをひたすら 待っていてくれたのだとも思われ、そ の約束を果たすことが出来たことを心 から感謝している。」と『森の昆虫記 2』 の「あとがき」に記しています。

三代目の本道先生は15年お亡くなりましたが、小社の創業当時から長きにわたり変わらない多くの助力いただいていました。

また義弟の宇田川洋先生には、小社の活動をいつも暖かく見守っていただき、多くの考古学関係書籍の刊行ほか、多くの面で支援をいただいています。

16 年発行の本道先生の追悼集『無言の背中』の「「編輯後記」を私が書くことになるなど、きっと適任の方がいたはずだと思っています。

120年を越えての河野家との有り様は歳月のもつ重みと、人と人の出逢いの不思議さを思わずにはいられません。

継続の特徴

小センターが微力ながらも永きにわたり学問研究の場に広く史資料の出版を続けることが出来ていますのは、先の杉山寿栄男先生の著書の元本の多くを、そして北海道考古学の先達の方たち、後藤寿一・新岡武彦・馬場脩・米村喜男衛先生らの著作物などなどのほかを次から次へとなんの惜しみもなく提供して下さり、鶴岡への阿部正己資料、東京各所への地図撮影などと小社の一員であるかのような河野本道先生大きな存在がありました。

そんな中97年には、先生と小社が復刻した『アイヌ史資料集』(第一期第三巻)に対し差別図書として訴えられる

ということがありました。札幌弁護士会・札幌法務局からの説諭などがなされましたが、先生は一貫して「どのような法律に違反しているのかを明らかにすること」を主張され、「法に従う」と言われていました。

復刻本を多く出版している小社も和解には応じないとし、地裁・高裁と続いた勝訴判決は、07年4月最高裁での控訴棄却の判決により、長い年月を要し終わることができました。

小社の受賞など

82年、「全国ふるさとの本まつり」(他 袋西武百貨店)に北海道書籍出版協会 として参加。91年、『三七本のイナウ』 (90年刊)ブックイン鳥取地方出版文 化功労賞次席を受賞、92年、『アイヌ フォークロア』(91年刊)同功労賞を 受賞。04年、ジュンク堂書店池袋店に て「1971 - 2004 北海道出版企画セン ターの全軌跡」開催。06年、「梓会出 版文化賞」受賞。これらは、みな地方・ 小出版流通センターの川上賢一さんの 情報、推薦などによるもので、感謝申 し上げます。

「梓会出版文化賞」選考理由にもなっていた松浦武四郎翁の書籍刊行では、 史料所蔵者の松浦一雄さんに史料の利 用にご理解をいただき、翻刻者の秋葉 實さんには、20冊1万頁もの書籍を出 版させていただき、日々の積み重ねら れたご努力に感謝しています。

このように小社が現在ありますのは、 史料所蔵者・著者・編者・購入者、「北 海道史研究協議会」・「松浦武四郎研究 会」など、惜しみないご協力いただい ております多くの皆さま、そして制作 を担当いただいています印刷所・製本 所・装幀者などなど多くの方々のご協 力ご支援があってのことで、全国的に みてもこれほど皆様のご理解の上に成 り立っている出版社は珍しいと言え、 日頃からの応援に対し心から感謝して おります。

(のざわ いさお・北海道出版企画センター代表)

*

※次の3頁に、北海道出版企画センター 創業50周年記念事業実行委員会により ます趣意書を掲載いたします。

(編集部)

■ 北海道出版企画センター創業50周年記念事業協賛金募集趣意書 -

令和3年3月吉日

- /////

北海道史研究協議会・松浦武四郎研究会 アイヌ語地名研究会・北海道考古学会 北海道・東北史研究会・北方島文化研究会

会員各位

北海道出版企画センター創業50周年記念事業 実行委員会 代表 田端 宏

北海道出版企画センター創業50周年記念事業協賛金募集趣意書

時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、私どもが日頃お世話になっております北海道出版企画センターが、本年2月に創業50周年を迎えました。

ご承知のとおり、同センターは、昭和46年の創業以来、長きにわたり北海道考古学・松浦武四郎・アイヌ語地名を含む広範囲にわたる北海道史関係書籍(史料・論文・一般書等)を出版されて、北海道史研究の発展と道民の歴史認識を深める上で多大な貢献をされると共に、多くの研究会の会誌発行や事務局担当などをとおして、会の活動にも協力してこられました。

つきましては、同センターと関係の深い研究会・学会の代表等が協議の結果、同センターの北海道の出版文化事業に果たしてこられた多大な業績を称え、研究会の諸活動に貢献されたことに謝意を表するとともに、さらなる発展を期して、下記のとおり記念事業を実施することになりました。

つきましては、出費多端の折柄、誠に恐縮に存じますが、何卒本事業の趣旨にご賛同いただき、協賛金のご寄付を賜りたく、お願い申し上げます。

記

1. 事業実施の組織

- (1) 北海道出版企画センター創業50周年記念事業実行委員会
 - ① 代表 田端 宏(北海道史研究協議会・松浦武四郎研究会・北海道・東北史研究会会長) 委員 右代啓視(北方島文化研究会代表)、臼杵 勲(北海道考古学会会長)、宇田川 洋(北海道生涯学習協会会長)、高木庄治(弘南堂書店店主)、藤村久和(アイヌ語地名研究会会長)、野澤緯三男(北海道出版企画センター代表取締役)
 - ②事務局(連絡先)

所在地 001-0018 札幌市北区北18条西6丁目2-47 北海道出版企画センター内(011-737-1755) 事務局員 ト部信臣・関 秀志(代表)・高木崇世芝・出村文理 〔発起人〕

2. 事業の概要

- (1) 記念誌の出版
 - ○センターと関わりの深い方々(センターが発行した書籍の編・著者、研究団体の関係者、印刷・製本・出版関係 者、書店主等)の寄稿(祝辞、その他)
 - ○センターの出版事業史と刊行書籍一覧
- (2) 祝賀会
 - ○新型コロナウイルスの感染問題が収束しなければ開催は困難ですが、今後の状況を見ながら、実行委員会で協議し、開催が決定しましたら、改めてお知らせします。できるだけ、簡素に、会費制で行います。
- (3)展示会
 - ○センターの出版物を北海道史の研究分野と関連付けて展示する。
 - 〔例〕考古学、アイヌ語地名・アイヌ文化、松浦武四郎など人物伝、北海道史(近世・近現代史)と出版物など ○開催時期、会場、構成等は今後協議し、決まりましたらお知らせします。
- (4) 事業費
 - ○総額は未確定ですが、100万円程度を予定しています。
 - ○経費は賛同者からの協賛金(寄付金)と北海道出版企画センターからの拠出金を充当します。
- 3. 事業資金(協賛金)の募集
 - (1) 募金期間

令和3年3月1日から同年10月31日まで

(2) 募金の種類

 ①個
 人
 1口
 5,000円 (口数は任意です)

 ②法人及び団体
 1口
 10,000円 (同
 上)

(3) 払込方法

 郵便振替
 口座名
 北海道史研究協議会

 口座記号・番号
 02730-8
 2253

(4)その他

協賛金をご寄付いただいた方には、記念誌を1冊進呈いたします。

新刊ダイジェスト

表示されている値段は本体価格となっております。ご購入には別途、消費税がかかります。



『猫沼』●笙野頼子著



ネット用語で「沼」と言えば何かにどっぷり ハマるという意味。沼にハマってしまったかの 如く、その世界から抜け出せないところまで落 ちてしまったことで、対象はアニメや漫画、ア イドルや声優など、夢中になれるものなら何に でも使えてしまう。果たしてタイトルは「沼 猫」。この用語を踏まえているかどうかは不明 だが、本書は猫と暮らす日常を独特の文体で 綴ったエッセイである。著者は20年ほど前か ら千葉県の印旛沼から300メートルほどの一 軒家に住んでいるが、そもそもこの家は猫のた めに買った家だった。まさに沼際に住み、コロ ナ以前の 10 章から成るエッセイのタイトルに は全て "猫" がつき、最終章の "猫沼" には "ね こにおぼれて"というルビが振られているので、 そのハマりぶりが強く窺える。

しかし単なる猫エッセイではない。著者は難病を患っており、60代半ばを迎え、老いと病についても考える。今まで4匹の猫を看取り、以降は逡巡の末、猫シェルターから老猫を引き取り、現在はピジョンと名付けたその一匹と暮らす。自身の状況や生い立ち、小説や文壇のこと、さらに日本社会をシニカルに分析。コロナ後に加えられた11章 "猫続"では今までの4匹の全てを兼ねているようなピジョンの手術も乗り越え、一瞬の幸福を永遠に感じる境地を実感。猫は次々と後継され、生まれ変わる。一緒に夜を越えてゆく。初版限定で著者が撮影したカラー猫写真帖付き。(Y)

◆ 2000 円・四 六 判・202 頁・ス テュ ディオ・パラボリカ・東京・202102 刊・ ISBN9784902916430

『古地図で行く秋田』●五十嵐典彦著



秋田県は江戸時代に久保田藩や亀田藩・本荘 藩などの支配下にあり、その下でいくつもの町 が繁栄しました。本書はそうした秋田の町を実 地に調査した著者が、古地図をもとにその成り 立ちなどを解説していきます。分類としては城 を中心に発達した都市である城下町、各地の中 核的な町である在方町、他に港町、鉱山町、門 前町の五つに分けて解説がなされています。横 手や秋田など今も大きな都市である城下町は絵 図も多く残っていて、武家町と町人町の町割り などにはそれぞれの特徴があり、現代にそれが どのように残っているのかもよくわかります。 在方町は中世の城や街道沿いに発展したものが よく見られます。決して大きな町とは言えませ んが、街道沿いに特有の間口が狭く奥行きの長 い家並みが、現代の都市計画図にもしっかりと 描かれていて、往時の賑わいが感じられます。 五つの分類に分けられた町々はそれぞれの機 能、領主の城館や寺社・街道との位置関係や自 然地形に条件づけられて、時に似通り時に個性 的にと様々な姿を見せます。

実際にはそこに伝統的な建造物がたくさん残されているわけでもありません。著者もあとがきで、見た目ではどこも同じ印象を持ったと述べています。むしろ本書のように古今の地図を比較し面的に眺めることによって、それぞれの町が何を意図してそのようなかたちになったのか、そしてどのように今の町にそのかたちが残されているのかがよく伝わってきます。

(副隊長)

◆ 1800 円・A 5 判・211 頁・無明舎出版・秋田・ 202101 刊・ISBN 9784895446648

【『21世紀の<想像の共同体>-ボランティアの原理 非営利の可能性』●安立清史著



本書は、超高齢化社会やコロナ禍という幾多の難問を抱えた社会現実を踏まえて、ボランディアや非営利組織の可能性を切り拓く、刺激に満ちた論考の書である。タイトルに用いられている「想像の共同体」はベネディクト・アンダーソンの言葉であるが、著者のそれは原義とは異なり、ボランディアや非営利、あるいは利他性や無償性という言葉に潜在する可能性を押し広げた先に立ち現れる「非営利という想像の共同体」なのである。著者の論考の根底には「労働と仕事・活動」という政治哲学者アンナ・ハーレントの概念区別や見田宗介の「交響圏とルー

ル圏」という共同体モデルの区別が、さらには「交響コミューン」や「災害ユートピア」といったユートピア論がある。

こういうと理念的すぎるように聞こえるが、NPOや介護保険等々、福祉制度や歴史への考察が踏まえられてのことである。社会福祉や社会保障の現実は行政と市場原理と非営利活動が複雑に絡み合っている。だからこそというべきか、本書のような「無償の行為」への原理的な考察が必要となる。(T)

◆ 1800 円・四六判・184 頁・**弦書房**・福岡・202103 刊・ISBN9784863292246

「『細谷卓爾の軌跡 水俣から琵琶湖へ』●関根英爾著



細谷卓爾は、一生涯を滋賀県における労働組 合運動、県の財政健全活動、琵琶湖浄化活動・ せっけん運動、生協環境活動、チッソの水俣闘 争、三池炭じん爆発事故者 (CO 裁判闘争) への 援助、生協環境活動に捧げ、誠実に尽力された 人である。これらの問題は一つとしてナマ容易 いものではない。1974年11月に行われた滋 賀県知事選では八日市市長であった革新統一候 補として武村正義を担ぎ出し、当選させる。滋 賀県の明るい民衆的な県政を打ち立てることに なる。1987年11月8日には周囲約250km の琵琶湖を26万人が人の輪で包むイベントを 開催した。参加費一人 1000 円でもって、身障 者を支援するためであった。チッソの守山工場 では、労働運動は組合員の賃上げ闘争だけでな く、公害、労働災害根絶に向かう労働運動でな ければならないことを自覚する。その後、水俣病闘争、三池炭じん爆発闘争に関わりながらその信念を貫く。工場の中の労働災害と工場の外の公害は表裏の関係、労働者をいじめる経営者は内に労働災害を引き起こし、外に公害を出す、今一つは地域住民、漁民らが自然界の変化に鈍感になってしまうと公害になる。

大衆運動の進め方については、「運動の目標をしっかり定め、核となる組織をつくり、到達する道筋をはっきり示す。科学的で合理的な根拠を明らかにし、説明を尽くし、共感の輪を広げていくこと。市民の意識が変わり、社会が変わる」という。(古賀河川図書館・古賀邦雄)

◆ 2800 円・四六判・324 頁・サンライズ出版・ 滋賀・202101 刊・ISBN9784883257126

『椎葉の歴史物語 改訂新版』●新山芳彦著



平家落人伝説や平家まつりで知られる宮崎県椎葉村の村立中学校教員だった著者が、40年前に著した郷土の歴史書の改訂新版。当時社会科で教えていた著者が生徒に読ませる資料として書いたもの。改訂に際してはできるだけ深みを増すように努めたという。巻末に当時の教え子たちの感想文が収録されているが、そのうちのひとつに「椎葉の歴史は平家の落人がやってきたときにできたのだ、と思っていました」というのがあった。私たちの多くもまたこの生徒と同じような漠然としたイメージを椎葉村に対して持っているのではないかと思う。

しかし、本書を読むと、縄文時代の住居跡や古 墳時代の墳墓のことが書かれており、当たり前の ことであるが、悠久の歴史があることを改めて教 えてくれる。本書の出色は平家残党とこれを追う 源氏追討軍が椎葉に流れ込み、村に大きな変動をもたらす鎌倉期の記述である。そこには伝説や昔話にもなっている物語がある。しかし、その後の江戸期の記述を見ると、椎葉村も幕藩体制に組み込まれ、勢力争いや一揆(逃散)や弾圧事件に翻弄されていたことがわかる。例えば、江戸中期の杣山願事件は、幕府所有の山林を村の困窮を救うために杣山として認めてもらおうと村役人が人吉藩に願い出た事件だが、藩はそのような切実な村の要求をはねつけ、何と村役人二人を極刑に処してしまう。椎葉もまた当時の各地の村々同様いくつもの時代の受難に遭遇していたのである。ここでもやはり、平家落人の隠れ里という漠然とした認識を改めさせられる。(N)

◆ 2000 円・A 5 判・277 頁・**鉱脈社・**宮崎・ 202012 刊・ISBN9784860617752

『明治維新はなかった!? ─渋沢栄一の従兄弟たちの彰義隊 上野戦争と明治の偉業』●たみやじゅん著



慶応4年(1868)2月、将軍徳川慶喜は上 野寛永寺に蟄居し、4月には勝海舟と西郷隆盛 の会談によって江戸城は無血開城した。これに より 265 年間続いた幕藩体制の幕は閉じられ た。だが、承服せずに武力行動に打って出た幕 臣が数多くいた。その象徴的な存在が、慶喜の 警護を目的に結成された彰義隊である。中心人 物は上州(群馬県南牧村)出身の天野八郎と一 橋家に仕えた武州(埼玉県深谷)の渋沢成一郎 であった。しかし、同年7月、新政府軍によっ て、わずか 10 時間で壊滅させられた。いうと ころの上野戦争である。幕臣たちを彰義隊結成 に向かわせた思いと慶喜の動向、悲惨な最後を 迎える上野戦争の実相が精細に解き明かされ、 生き残った彰義隊士の明治時代における活躍と 社会貢献に光が当てられる。「明治維新」が近

代天皇制形成と共に、日本資本主義生成の契機 になったことはいうまでもない。渋沢成一郎は、 上野戦争の最中に幕府からパリ万博に派遣され ていた従兄弟渋沢栄一の協力もあって実業家と して活躍する。

また、上野戦争前に成一郎と共に彰義隊と分かれ、振武軍を結成して新政府軍と戦って敗れた尾高新五郎も、栄一の推挙で富岡製糸場の初代場長となる。無念を背負いながら黎明期の日本資本主義を担った彼らへの温かい眼差しが向けられる。一方で、慶喜には、決して「明治維新」の立役者などではなく、日和見と遁走で彼らを裏切り続けたと、辛辣な評価が下される。(飯澤文夫)

◆ 1000 円・四六判・190 頁・**上毛新聞社・**群馬・202101 刊・ISBN9784863522701

売行良好書

期間: 2021 年 2 月 15 日~ 3 月 14 日 ※価格は本体価格表示です。別途消費税がかかります。

「出荷センター扱い]

(1) 『生命の謎』1600 円・アートヴィレッジ (2) 『たぷの里』1200 円・ナナロク社 (3) 『嘘つきシンちゃんの脳みそ』1000 円・スーパーエディション (4) 『大阪狛大物語』2000 円・澪標 (5) 『愛しの灯台100』1900 円・書肆侃侃房 (6) 『はじめての郷土料理』2200 円・燦燦舎 (7) 『希望の一滴』1500 円・西日本新聞社

(8) 『特別報道記録集 三陸再興 いわて震災10年の歩み』1600円・岩手日報社 (9) 『不登校は1日3分の働きかけで99%解決する』800円・リーブル出版 (10) 『荷を引く獣たち』2800円・洛北出版 (11) 『戦場の漂流者・千二百分の一の二等兵』1800円・弦書房 (12) 『森林浴』1900円・まむかいブックスギャラリー (13) 『昔話と子どもの空想』800円・東京子ども図書館











[三省堂書店神保町本店 センター扱い図書]

(1) 『夜想 山尾悠子』2400 円・ステュディオ・パラボリカ (2) 『嘘つきシンちゃんの脳みそ』1000 円・スーパーエディション (3) 『本の雑誌 No. 4542021年4月号』800 円・本の雑誌社 (4) 『東京かわら版 No. 5712021年3月号』545 円・東京かわら版 (5) 『高尾山登山詳細図全112コース』900 円・吉備人出版 (6) 『木曽伊予守義昌』2000 円・歴研 (7) 『大丈夫マン 藤岡拓太郎作品集』1000 円・ナナロク社 (8) 『水の聖歌隊』1700 円・書肆侃侃房 (9) 『希望の一滴』1500 円・西日本新聞社 (10) 『天才による凡人のための短歌教室』1200 円・ナナロク社

[ジュンク堂書店池袋店 地方出版社の本─センター扱い図書]

(1) 『東京の森のカフェ』1300 円・書肆侃侃房 (2) 『二重のまち/交代地のうた』1800 円・書肆侃侃房 (3) 『希望の一滴』1500 円・西日本新聞社 (4) 『中国妖怪 鬼神図譜』3500 円・中国書店(集広舎)(5) 『特別報道記録集 三陸再興いわて震災10年の歩み』1600 円・岩手日報社 (6) 『本とみかんと子育てと』3000 円・みずのわ出版 (7) 『中国生業図譜』3500 円・中国書店(集広舎)(8) 『渋沢栄一の深谷』1800 円・さきたま出版会 (9) 『新装版 奥武蔵登山詳細図 全130コース』900 円・吉備人出版 (10) 『イージス・アショアを追う』1600 円・秋田魁新報社 (11) 『現代語訳 上井覚兼日記』1800 円・ヒムカ出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。 URL: http://neil.chips.jp/chihosho/ ツイッター公式アカウント:@local_small

トピックス --- ★★★

▼今年のNHK大河ドラマは2024年の新一万円札の額となる渋沢栄一が主人公



の【青天を衝け】という ことで、渋沢栄一関連書 の刊行が増えているよう です。【大逆転~渋沢栄 ー・炎の青春~】(高見 沢功著・本体 1800 円・ ISBN978-4-89757-981-8)

は福島の歴史春秋社から。〈農民に生まれながら、幕末動乱の 烈風の中で攘夷を実現させようとしてい た渋沢栄一。二度ノーベル平和賞候補に なった経済界の巨人。笑いあり涙ありの 幕末青春期。〉

▼【とちぎに生きる渋沢栄一 地域振興 陰の立役者】(下野新聞社編・本体 1600 円・ISBN978-4-88286-773-9) は栃木の



下野新聞社刊。〈◇序章 73歳の渋沢が宇都宮 で語ったこと◇第1章 日光線開業130年 渋 沢の支援で実現した鉄道 敷設◇第2章 渋沢一族 が真岡で経営 柳林農社 ◇第3章 鹿沼の大麻を

工業原料化 渋沢も出資 ◇第4章 帝国ホテル新館が拓いた大谷石の近代建築

◇第5章 織物のまち足利と論語 ◇第6章 渋沢栄一の書 ◇第7章 渋沢 史料館 井上潤館長インタビュー。日本 資本主義の父と言われ、500社以上の著 名会社の設立に関わった渋沢栄一。その 渋沢の栃木県における足跡と業績を下野 新聞社編集出版部が1冊にまとめた。

渋沢は栃木県でも地域特有の資産に着目し、当時の栃木県の意欲あふれる実業家とビジネスパートナーを組んで、数々の会社設立や事業を仕掛けた。あまり知られていない渋沢と栃木県の意外な関係を探り、論語や日光との深い縁にも迫る。〉*********

本「アクセス」誌前号の2021年3月号1面、小林 久氏(茨城大学・名誉教授、全国小水力利用推進 協議会・理事)によります『小水力発電を知って いますか?』の一部に事実とは異なる記述があり ました。以下訂正してお詫びいたします。

3 段 17行目「…例えば、日本初(1988 年)の水力 発電所…」の〈1988 年〉→〈1888 年〉



三省堂書店

営業の ごあんない

神保町本店 4階 地方出版・小出版物フロア

営業時間 10:00 AM ~8:00 PM 〒 101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1 TEL. 03-3233-3312(代)

URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流 通センター扱いの新刊全点のほか、 地域別に書籍を取り揃えており ます。また、地域ならではのタウ ン誌、趣味の雑誌も扱っております。

